

第六十二回 江戸川乱歩賞決定及び 受賞者記者会見のお知らせ

日本推理作家協会主催の第六十二回「江戸川乱歩賞」は、本日（五月十六日）午後四時より開催された最終選考委員会において、本年度の受賞作を左記の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。

（後援／講談社・フジテレビジョン）

選考委員／有栖川有栖・池井戸潤・今野敏・辻村深月・湊 かなえ

（五十音順敬称略）

場 所／帝国ホテル「楓の間」

記

◎第六十二回 江戸川乱歩賞

江戸川乱歩像及び副賞 賞金1000万円

『QJJKJQ』

けんいん

きわむ

犬胤 究氏

今回の江戸川乱歩賞応募作品は三百三十八編に達し、九十二編が第一次予選を通過、さらに第二次予選で二十二編が選ばれ、最終候補作として選ばれた四編の中から右記の作品が決まりました。受賞作は八月上旬、講談社より刊行されます。

なお、賞贈呈式は九月九日（金）午後六時より、帝国ホテルにおいて行われます。

日本推理作家協会

講談社 広報室 電話03(53395)3410

犬胤 究（けんいん・きわむ） 一九七七年九月一三日生 三八歳

学歴 福岡大学附属高校卒業

筆歴 二〇〇四年『サージウスの死神』（佐藤憲胤名義）で第四七回群

像新人文文学賞優秀作に入選、二〇〇五年に書籍化。二〇〇九年

『ソードリッカー』刊行

出身地 福岡県福岡市南区

住所 東京都新宿区

《受賞作品概要》

『QJKJQ』

西東京市に住む女子高生・市野亜李亜の家族四人は、全員が殺し屋だった。住宅販売員の父は、血を抜いて人を殺す。家事をしない母は、バーベルのシャフトで撲殺する。引きこもりの兄は、嘔み付いて失血死させ、つるはしとシャベルで心臓をえぐりだす。そして末っ子の亜李亜は、鹿の角から削りだしたナイフで刺す。

猟奇殺人の秘密を共有しながら、一家は郊外でひっそりと暮らしていた。不動産業界紙を熱心に読む父との短い会話や、近所の公園でこっそり鳩を殺すOL「鳩ボン」の観察などが亜李亜の日常だ。

夏のある日、頭痛を感じて帰宅した亜李亜は、部屋で惨殺された兄を見つける。凶器はパン切り包丁。さらに、めった裂きの死体は、魔法がかかったように消失する。家族はみな殺人者であるため、警察は呼べない。一家は犯人の形跡を探すが見つからず、その翌日には、母が姿を消した。

大雨の夜、問いつめる娘をはぐらかす父は、ポーカーの勝負を持ちかける。亜李亜が渡されたカードは、二回つづけて「QJKJQ」の順番に並んでいた。クイーンとジャックの2ペアにすぎないが、「ESTO PERPETUA」というラテン語の手役で、亜李亜の勝ちだと父はいう。困惑する亜李亜は真夜中に目覚め、テーブルの上の天井に隠しカメラを発見する。父を問いただし、録画された画像を見るが、そこには母と兄が映っていない。恐ろしくなった亜李亜は、家を出る決意をする。父は「七十二時間後に戻りなさい」と告げ、いつも読んでいる業界紙をなぜか手渡してきた。

宿泊したネットカフェで今日起きた殺人のニュースを見てみると、事件現場が父に渡された新聞の「今週の不動産情報」欄と奇妙に一致することに気づく。翌朝、地元へ戻り、宿泊費を浮かすため、鳩殺しの秘密を守るかわりに部屋に泊めてほしいと「鳩ボン」に頼む。彼女の職業が客室での殺人や事故の有無を調べるホテル鑑定士であることを知った亜李亜は、過去に起きたパン切り包丁事件の調査を依頼する。